

生駒市の医療のまちづくりビジョン(案)への質問と意見一覧表

(P1) はじめに ～生駒市・医療のまちづくりビジョン策定までの経緯とビジョンの概要				対 応
中項目	小項目	意見	質問	
			医療のまちづくりビジョン策定懇談会を3回開催されるとのことですが、会議のロードマップはどうなっていますか。	有山さま 本日は、ビジョン(案)の説明の後、皆様からご意見をいただき、ビジョン案を整理します。次回に、内容を確認いただいて、さらなる調整をした後、ビジョン(案)として作成し、パブコメを行います。年明けの3回目では、「市民の意見に対する市の考え方」を整理して、ビジョン(案)に反映した最終案を皆様に確認していただき、正式なビジョンとして策定していく予定です。
			「生駒市の医療のまちづくりビジョン」の目的を共通認識しておきたいのですが、策定した「ビジョン」を今後どのように活用していくのでしょうか。	有山さま 策定懇談会には本ビジョンに関わりのある医療、福祉、教育など多くの分野の第一線で活躍されている方にご参加いただいています。策定後は広く市民、関係者に周知するとともに、参加者の皆さんとともに市域全体で本ビジョンで掲げる理念の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。市においては、各担当課において理念の実現に向けた施策を展開するなど率先して取り組んでいきます。
(P2～14) 第1章 これからの10年で生じる大きな社会環境の変化と問題				対 応
中項目	小項目	意見	質問	
P.2 (1)少子化及び支援の必要なこどもの増加	②支援が必要なこどもの状況	保育園、幼稚園、小中学校 など全ての教育機関における連携（ワンストップで）が必要。専門家（教員、カウンセラー、医師、栄養士、セラピストなど）がチームを作って分野を超えたカンファレンスなどが行える体制が必要。教育機関から離れて地域で暮らす大人になった発達障がい者（適切なサポートを受けられず地域で1人で暮らす方）へのサポート＝地域で困った問題を起こしており民生委員が対応に苦慮されている例がある。		奥田さま 福祉部門では、「かさねるいこま（生駒市重層的支援体制整備事業）」、教育部門では、「生駒市子どもの居場所・学び支援室」などの取り組みを実施しているところです。ビジョン(案)では、具体的な事業内容まで決めてしまわず、どのようなことが必要か方向性を示していきたいと考えています。
P.7 (2)健康寿命の延伸への対応		「3年受診しない人へのがん検診の案内をストップする」のは経費削減として有効でも市民への不利益が大きいのでやめが方がいいと思います。それよりもゲーミフィケーション、行動経済学などを生かして、受診したくなる行動を促す方法を考えると良いと思います。がん検診のデータが一元管理されていない点に早く対応すると、上記が行いやすくなると思います。		奥田さま 生駒市においては、国の基準に合わせて40歳以上69歳までの方全員に送付しています。70歳以上に限り、3年未受診の場合には案内を送付していませんが、広報などで周知するとともに、希望に応じて送付しています。
P.9 (3)高齢化及び医療介護ニーズの高い方への対応		75歳以上が後期高齢者となった後、85歳以上人口の増加へ目をむけるのも大事ですが、後期高齢者の絶対数は（死亡などで）減少するので施設の数などは過剰になることを見越して、現在のニーズに対応する必要があります。（現在のニーズに合わせすぎると、過剰になった施設等が遊休になってしまう）		奥田さま 高齢者人口が減少するタイミングを迎えると想定されますが、一方で生産年齢人口はさらに減少していき、医療や介護従事者が現在のまま推移できない可能性も考えられます。第9期介護保険事業計画で適正な介護事業所数となるよう定めています。必ずしも過剰となると限らないことから追記しないこととしました。

生駒市の医療のまちづくりビジョン(案)への質問と意見一覧表

(P15~19) 第2章 社会変化や課題への具体的な対応					対 応
中項目	小項目	意見	質問		
P.15~ 第2章 全体		総合事業の充実に向けて、訪問Aの高齢者雇用の拡大なども含めてはどうでしょうか。		北村さま	P.17「①医療と介護の連携」において、『生産年齢人口の減少に対応した高齢者雇用の拡大』を追記します。
P.16 (2)健康寿命の延伸への対応	①健康診断の受診促進		地域ポイントと地域通貨の違いがわかりませんでした。 まちのコイン(アプリ)は高齢者の方にはなじみが少ないと思います	北村さま	『地域ポイント』は、特定の地域やコミュニティ内で使用されるポイントシステムです。 地域活動に参加するとコインが獲得でき、その獲得したコインを使って、「スポット」と呼ばれるお店・企業・団体等で、特別な体験やサービスを受けることができます。具体例の一つとして、本市で導入している「まちのコイン」を挙げています。 『地域通貨』は、地域経済を活性化させるために導入される地域独自の通貨です。 地域通貨は、地域の経済循環を促進し、地域資源の活用や地域固有の文化を支援することを目的として導入されます。 本市では、健康ポイントのしくみを考えているところですので、「健康ポイント」で統一することとします。
P.16 (2)健康寿命の延伸への対応	④介護予防・フレイル対策・認知症予防への取強化	介護予防・認知症予防として、移動支援の拡充が必要かと思えます。足腰が弱り、バス停まで歩けない(急坂などの理由で)方が多く、閉じこもり・フレイルにつながっている方も多いです。通いの場の拡充はもちろんですが、通いの場までいけない方の支援が課題かと思えます。		北村さま	P.16「③地域コミュニティを活用した健康づくりの項目」において、『通いの場への参加促進のための移動支援の拡充』を追記します。
P.17 (3)高齢化及び医療介護ニーズの高い方への対応	②在宅医療を推進する体制	現在「やまと西和ネット」の運用が不安定な状態であり、今後の方向性について検討中でありますので、「やまと西和ネットの活用による医療・介護情報のプラットフォーム化」は、一旦、削除しておいてください。		有山さま	配布資料「生駒市の医療のまちづくりビジョン(案)」から文言を削除しました。
P.18 (4)災害リスクへの対応	①災害時の医療機能の確保	共助の例として、救急患者対応となっていますが、救急患者対応は公助ではないでしょうか。共助は生活再建などになるのではないかと思います。		北村さま	P.18 災害時においては救急車の要請件数が増加することが想定されます。限られた救急車で全ての要請に応じることができないことから、近隣の方で助け合って病院へ搬送していただくことも必要ですので、共助の一つの例として記載しています。
(P20~22) 第3章 これからの医療のまちづくりを進めるための基本理念					対 応
中項目	小項目	意見	質問		
P.22 (3)医療関係者、市民や地域との本気の共創	<大学等学術研究機関や専門家との連携>	(右の質問から) 大阪の「近畿大学医学部」及び近畿大学奈良病院との連携について、ある程度の予定があるのであれば、そのままでもいいと思いますが、連携の見込みがないのであれば削除して、「～奈良県立医科大学など」にしておいてもよいのではないのでしょうか。	現在、先端大や県立医科大学、近大医学部との連携について、ある程度の取り組みの予定や見込みはあるのでしょうか？ 「近畿大学医学部」とは、近畿大学奈良病院を想定しているのでしょうか？それとも大阪の「近畿大学医学部」本体を想定しているのでしょうか？それとも両者を含めてという意味でしょうか？	有山さま	近畿大学との具体的な連携が未定のため、配布資料「生駒市の医療のまちづくりビジョン(案)」から「近畿大学医学部」の文言を削除しました。